

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般小売店〔衣 料品・雑貨〕 （経営者）	販売量の動き	・前年対比で見ると前年並みではあるが、ここ何か月 かが前年を下回っていただけに良い結果と判断してい る。
	やや良く なっている	一般小売店 〔鞆・袋物〕 （経営者）	来客数の動き	・旅行関係の商品が前よりよく動いている。また、旅 行会社が多くなっているため、関連商品が多くなって いる。
		スーパー（財務 担当）	来客数の動き	・既存店ベースで100%に回復している。クールビズ の効果でかりゆしウエアが好調である。
		コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・猛暑なのでビールやアイスや飲み物、またはそれに 付随して珍味類と惣菜がよく出ている。
		その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）	来客数の動き	・インターネットや観光案内紙を見て来店する客が前 年より15%ほど増えている。
変わらない	百貨店（担当 者）	販売量の動き	・7月に入り、クリアランススタート以降主力の婦人 衣料が比較的好調に推移している。6月ほどの好調さ はなくなったが、7月単月で前年比3%ほどのプラス となる見込みである。また昨年よりも1週間早い中 元商戦も好調であり、割引率を昨年並みに設定し競合 店との価格競争力を維持したことが要因と判断する。 中元ギフトにけん引されることにより、食品において は前年比5%のプラスとなる。ただし、家庭用品売場 において催事関連の売上に前年度とのズレが発生し、 売上は苦戦している。結果、衣料品、食品の好調を若 干マイナスし、全館にて前年並みとなる見込みであ る。	
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・ここ数か月、前年比を見ても客単価、客数ともにあ まり変化は見当たらない。
		その他専門店 〔楽器〕（経営 者）	販売量の動き	・観光客の増加はあるが、同業者の増加、価格競争、 観光客のリピーター率のアップで、売上にすぐには結 び付かない。
		観光型ホテル （商品企画担 当）	単価の動き	・7月8月のトップシーズンにおいては、前年並みで 推移する。
	観光名所（職 員）	来客数の動き	・施設利用者は3か月前の4月、前年同月をともに上 回り、順調に推移している。来園者は家族連れ、カッ プル、友人同士が中心である。	
やや悪く なっている	コンビニ（エリ ア担当）	お客様の様子	・新規開店の時もセール商品しか購入しない客が多く 見受けられる。新規開店時の客単価が3か月前から比 較すると3%下がっている。	
	住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・展示場の来場者数が減少している。毎週末の祭り等 のイベントの影響が大きいと考えられる。また、実質 の商談ベースの客も減少傾向にある。	
悪く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・客の動きから見ると、中心商店街、街のエリアは観 光関係の客が多くなって、地元客は外周部に流れ、な かなか売れないのが現状である。個人経営店の売上 には日々、相当にブレーキがかかっている。	
	コンビニ（経営 者）	競争相手の様子	・隣接したスーパーのリニューアル、近くのスーパー の閉店セール、さらには、当店の商店街における同系 列のコンビニのなりふり構わない出店で、売上は対前 年比で10%減少している。	
	住宅販売会社 （経営者）	それ以外	・公共工事の事業発注量が非常に少なく、競争相手の 倒産が増えている。今後の見通しも立たない。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・自治体、法人向け競争入札で大型案件の受注が確定 した。また、各家庭まで光ファイバーを入線し、イン ターネットサービスを提供する内容のコンシューマ向 け光インターネットサービスに関して、工事費無料、 月額利用料割引のキャンペーン延長に伴い申込が増加 している。
		不動産業（支店 長）	受注量や販売量 の動き	・少しずつではあるが、問い合わせ件数、成約件数が 増えている。
変わらない	建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・受注価格が思いのほか低下している。	

		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原油高騰がまだまだ続き、値上げ依頼が今月もありコスト増で大変厳しい状況である。ただ売上、物量も例年並みであり、業務の効率化を計り自社で利益を絞り出す努力をしている。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている			
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・派遣はさほど大きく求人数、依頼の増加があるわけではないが、関連企業や周りの様子を見るに、業務が拡大して求人をかけている状況がある。だが、求人が追いつかない実情が特にサービス業で見られ、相変わらず求人と求職のミスマッチがある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	周辺企業の様子	・大手自動車メーカーの新車発表で、新車が好調の上、海外輸出も調子が良く、それに伴い雇用の需要がかなり出てくる事が予想される。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数も堅調に増加しており、企業の積極的な新卒採用がうかがえる。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月と比較すると、新規求人数は12.1%減の4078人である。一般求人は12.9%減で2759人（構成比76.9%）である。パート求人は9.1%減の827人（構成比23.1%）である。6月の新規求人は運輸、卸売・小売、金融・保険、飲食店・宿泊で増加し、建設、製造、情報通信、不動産、医療福祉、教育・学習支援、サービスで減少した。特に情報通信、医療福祉、教育・学習支援での減少が目立つ。有効求人倍率は0.05ポイント低下し0.52倍である。就職件数は3.3%減少している。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・依然として、新卒の採用状況は好調である。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-